

# 日本共産党 伊勢崎市議団ニュース

2011年  
夏号



編集・発行／日本共産党伊勢崎市議団  
伊勢崎市北千木町 2087 25-4854



北島 元雄  
24-8410  
090-4065-2120



長谷田公子  
25-1130  
070-5564-6271

## 放射能被ばくの不安から子どもを守って

6月6日から24日まで定例市議会が開かれ、長谷田議員が一般質問を行いました。

文部科学省は、福島県内の児童・生徒の年間被ばく量としていたんは20ミリシーベルト以下、これに見合った学校等における戸外の1時間当たりの放射線量として3.8マイクロシーベルト以下を目指す、という目標を示しました。しかし、この値は職業として放射線を扱う成人の基準値で、子どもに当てはめるのはほとんどないことです。

内外専門家や保護者の批判を受けて、ついに年間1ミリシーベルト以下をめざすと言わざるを得なくなりました。この値に対応する戸外の1時間当たりの放射線量は、0.19マイクロシーベルト以下ということになります。ところが、この値も国際的には成人に対する基準値です。「大人よりも放射能に対する感受性が強く影響が大きいと言われている子どもが、大人と同じ

基準値で良いか?」「子どもの生活全体や、内部被ばくの問題を考えると良いのか?」と、疑問はつきません。

長谷田議員は、伊勢崎市教育委員会としては目標値とする放射線量についてどのように捉えているか、たどりました。

### 「0.2マイクロシーベルト毎時 超したら検討」と明示

本会議では答弁がありませんでしたが、文教福祉常任委員会では北島議員が再度たどったところ、「被ばく量を年間1ミリシーベルト以下に抑えるために、1時間当たりの戸外での放射線量が0.2マイクロシーベルトを超したら何らかの対応を検討する。」との答弁がありました。



「年間1ミリシーベルト以下なら安心」とは言い切れませんが、国が相変わらず「3.8マイクロシーベルトが校庭利用の目安」と言っている中で、一定の基準を示したことは評価できます。

### 放射線測定器を配備し

#### 各所で測定を!

市は放射線測定器を5台購入し、その内2台を教育委員会が使っているとのこと。

教育委員会は「測定結果はホームページで公表する」といいますが、7月12日現在公表されている学校関係の数値は、環境部等が測定した校庭などの中央部での測定結果だけです(中面に掲載)。

長谷田議員は、「雨水が溜まる場所や風の吹き溜りは、放射性物質が集まり汚染が強いことが想定される。施設内外で細かく測定し、できる限り被ばく量を低く抑える必要がある。保護者には細かく公表をすべき。」と指摘。これも、検討が約束されました。

子どもに関わる全ての施設に測定器を常備し、各所での測定と公表を、答弁通り行うべきです。

# 長期間にわたり必要な放射能汚染対策

## 一本腰入れた対応を強く求める

### 放射線量測定値 (部分)

測定機器—環境放射線モニタ PA-1000 (HORIBA 製)

測定者—環境保全課職員、測定期間—5月～6月

測定場所—校庭・園庭などの中央

注) 測定値については、簡易測定器のため参考値です。

1シーベルト=1,000ミリシーベルト

1ミリシーベルト=1,000マイクロシーベルト

測定場所	測定値 (マイクロシーベルト/時)		
	地表	50 cm	1 m
三郷小学校	0.145	0.138	0.134
北小学校	0.093	0.078	0.082
北第二小学校	0.167	0.148	0.143
南小学校	0.150	0.126	0.129
殖蓮小学校	0.159	0.149	0.138
殖蓮第二小学校	0.155	0.150	0.143
茂呂小学校	0.150	0.137	0.140
広瀬小学校	0.141	0.134	0.136
宮郷小学校	0.136	0.113	0.124
宮郷第二小学校	0.064	0.076	0.062
坂東小学校	0.150	0.118	0.127
名和小学校	0.160	0.149	0.136
豊受小学校	0.157	0.145	0.151
第一中学校	0.079	0.092	0.078
第二中学校	0.091	0.077	0.076
第三中学校	0.097	0.073	0.079
第四中学校	0.105	0.087	0.082
殖蓮中学校	0.131	0.117	0.107
宮郷中学校	0.064	0.053	0.051
伊勢崎養護学校	0.149	0.130	0.123
四ツ葉学園中等教育学校	0.134	0.127	0.127
殖蓮幼稚園	0.095	0.080	0.076
三郷幼稚園	0.102	0.087	0.078
第一幼稚園	0.149	0.134	0.126
南幼稚園	0.146	0.139	0.125
宮郷幼稚園	0.127	0.111	0.113
名和幼稚園	0.089	0.087	0.074
茂呂幼稚園	0.121	0.121	0.119
豊受幼稚園	0.158	0.128	0.130
第二保育所	0.089	0.081	0.073
第三保育所	0.154	0.143	0.143
第四保育所	0.161	0.141	0.147



### 学校給食の安全性配慮を

環境から受ける「外部被ばく」の影響よりも重大な、食物や放射性物質を含むホコリなどを吸い込んで受ける「内部被ばく」について、子ども

も達は特に極力避ける必要があります。

子どもたちの内部被ばく量を下げ、学校給食の安全性を高める点でどのような配慮をしているのか、聞きました。

学校給食に使う食材について、「検査結果等を幅広く注視しながら、必要があれば国に対して話していきたい」、五十嵐市長は市長会で「安全基準をしっかりと国が示せ」と提言した、と答弁がありました。

「放射性セシウムで1kg当たり

野菜や穀物で500ベクレル以下、水や牛乳・乳製品で200ベクレル以下」等とい

う国の食品に関する暫定規制値は、放射性セシウムから受ける被ばく量を年間5ミリシーベルト以下に抑える数値ということ、異常に高い数値です。あくまで事故直後の非常時の規制値であり、長期間の摂取を前提にしたものとはいえません。

大人の責任として、食品の検査体制の確保、基準見直しで、子どもに最大の配慮を求めました。

# 長期間にわたり必要な放射能汚染対策 — 一本腰入れた対応を強く求める

## 放射線量測定値 (部分)

測定機器—環境放射線モニタ PA-1000 (HORIBA 製)

測定者—環境保全課職員、測定期間—5月～6月

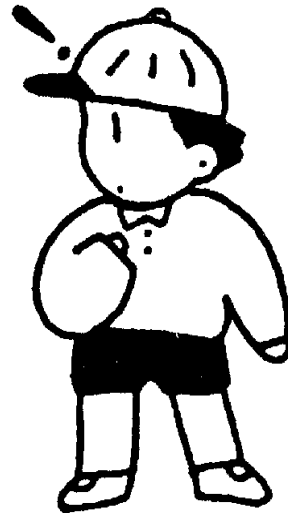
測定場所—校庭・園庭などの中央

注) 測定値については、簡易測定器のため参考値です。

1シーベルト=1,000ミリシーベルト

1ミリシーベルト=1,000マイクロシーベルト

測定場所	測定値 (マイクロシーベルト/時)		
	地表	50 cm	1 m
赤堀小学校	0.115	0.111	0.098
赤堀東小学校	0.118	0.111	0.109
赤堀南小学校	0.088	0.094	0.087
赤堀中学校	0.082	0.082	0.074
あずま小学校	0.133	0.132	0.127
あずま北小学校	0.133	0.126	0.129
あずま南小学校	0.157	0.129	0.138
あずま中学校	0.149	0.142	0.138
境采女小学校	0.120	0.100	0.098
境剛志小学校	0.160	0.140	0.127
境東小学校	0.066	0.067	0.078
境小学校	0.088	0.074	0.069
境島小学校	0.135	0.128	0.129
境北中学校	0.159	0.131	0.134
境西中学校	0.133	0.125	0.117
境南中学校	0.064	0.060	0.070
あかぼり幼稚園	0.156	0.136	0.132
あずま幼稚園	0.147	0.146	0.142
境いよく保育所	0.118	0.105	0.096
境ひので保育所	0.050	0.051	0.053
赤堀児童館	0.100	0.079	0.088
赤堀あさひ児童館	0.133	0.098	0.100
赤堀南児童館	0.071	0.071	0.069
きく児童館	0.123	0.096	0.096
さざんか児童館	0.096	0.086	0.088
あやめ児童館	0.117	0.100	0.090
境児童館どんぐり	0.106	0.105	0.087
境児童センター	0.114	0.093	0.078



### 学校給食の安全性配慮を

環境から受ける「外部被ばく」の影響よりも重大な、食物や放射性物質を含むホコリなどを吸い込んで受ける「内部被ばく」について、子ども

も達は特に極力避ける必要があります。

子どもたちの内部被ばく量を下げ、学校給食の安全性を高める点でどのような配慮をしているのか、聞きました。

学校給食に使う食材について、「検査結果等を幅広く注視しながら、必要があれば国に対して話していきたい」、五十嵐市長は市長会で「安全基準をしっかりと国が示せ」と提言した、と答弁がありました。

「放射性セシウムで1kg当たり

野菜や穀物で500ベクレル以下、水や牛乳・乳製品で200ベクレル以下」という国の食品に関する暫定規制値は、放射性セシウムから受ける被ばく量を年間5ミリシーベルト以下に抑えるというところで、異常に高い数値です。あくまで事故直後の非常時の規制値であり、長期間の摂取を前提にしたものとはいえません。

大人の責任として、食品の検査体制の確保、基準見直しで、子どもの安全に最大の配慮を求めました。

# 震度6強で倒壊の恐れ耐震性の低い体育館

## 名和小・豊受小・境東小

昨年度で終了した、学校施設の耐震診断結果が発表されました。I s 値が0.6以上あると、震度6強の地震でも倒壊や崩壊に至らないとされ0.6を下回ると被害を受ける割合が高くなります。0.3未満では倒壊や崩壊の危険性が高いとされています。

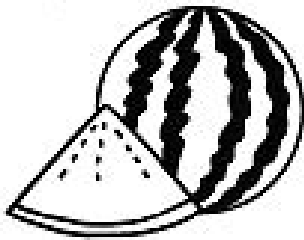
昨年度の診断で名和小（I s 値0.18）、豊受小（I s 値0.15）、境東小（I s 値0.17）の各体育館が、極めて耐震性が低いことが判明しました。どれも昭和53年度につくった、鉄骨造りの建物です。避難所にもなる体育館が倒壊のおそれがあるのでは、子どもや住民の安全は守れません。緊急な耐震改修が求められます。

### 他施設の予算を回し今年度耐震設計

ところが市は新たに予算措置をするのではなく、今年度予定した境東小校舎の耐震設計をとりやめ、より危険度の高いこれらの体育館の耐震設計に予算を振り向けるというのです。

「想定外」の地震がいつどこで起こるか分からないという今回の大震災を教訓とすれば、必要な学校施設の耐震化を後まわしにすることは出来ません。市庁舎は耐震化を進め安全になったが、教育施設は後まわしというのでは困ります。

必要な予算をきちんと取り、学校の耐震化を急ぐよう強く求めました。



### 3月11日の地震による被害への対応

#### ■瓦屋根の見舞金の給付

2,298件 合計4,596万円を給付  
北 地区 480件  
殖蓮地区 425件  
三郷地区 381件  
赤堀地区 203件など

#### ■復旧工事に対する補助金の状況

4月1日から7月12日まで  
683件 4700万円程

#### ■伊勢崎市に避難している被災者

現在、主に福島からの避難者40世帯110名が、伊勢崎の市営住宅に42名・民間アパートに68名、避難されています。

「応急仮設住宅としての対応なので、クーラーの設置についても要望している。」との、市の担当者の話です。

### 太陽光発電2倍超申し込み

太陽光発電に対する関心が高まっており、設置する場合1キロワットにつき5万円（上限10万円）の補助を受けられる市の制度があります。5月16日まで募集した太陽光発電設置補助金の申請は100名の募集枠に対して、213名の申し込みがあり、抽選により100名が決定されました。

秋にさらに100名の募集枠があり、はずれた方も再度申し込みますが、事前着工は不可という条件があります。でも、新築の場合は秋まで工事待ってなどいられません。原発のみから、自然エネルギー活用の取り組みが広がっています。太田市では、昨年度でいったん打ち切った太陽光発電の補助を再開。今年度4000世帯に普及しようとして、初期費用無しのレンタル制度を打ち出しました。

伊勢崎でもせめて希望者すべてが助成を受けられるようにし、自然エネルギーへの転換を支援していく必要があります。



## 五十嵐市長に放射能問題及び耐震対策で申し入れ 7月7日

共産党伊勢崎市議団と前橋市議団は、党仙台東地区の宮城野区支援センターに震災ボランティアとして参加しました。

朝3時半に出発、仙台と気仙沼の支援センターに、ボランティア宿泊のための布団30数セットを届け、翌日は津波はなかったが、家屋被害の大きかった仙台市岩切地区で、国や県・市の支援制度をまとめたリーフレットを届け、要望の聞き取りをしました。

外見は被害のなさそうな家も部屋の壁が落ち、隙間から空が見え、柱にヒビが入るなどの状況で「怖くて住んでいけない」と話していました。

多くの方から、「被害調査は外回りをちょっと見ていだけ。これで被害判定が出るのは不満」との声が上がっており、再判定が可能な事を伝えました。「アパートが見つからず申請の期限を延長してもらいたい」などの、具体的な相談もありました。

しかし、「津波にあったみなさんのことを思えば」と、要望があっても遠慮して声を上げられなくなっている様子も感じられました。出された要望は仙台の地元市議に伝え、対応をお願いしました。

津波の被害にあった高速道路をはさんだ海岸側は、ことごとく破壊された海辺の工場や倉庫、広い水田地帯に入り込んだガレキと砂。住宅だけでなく産業基盤も大きな打撃を受けて、生活の再建までには長期の支援が必要なことを痛切に感じました。

- 1、放射性物質の拡散状況を正確に把握するため、測定箇所を増やすこと。市民からの要望がある箇所について、測定を行うこと。
- 2、小中学校、擁護学校、保育所、幼稚園などに放射線測定器を一台ずつ配置し、線量の高い場所があれば必要な対策を取ること。
- 3、給食の食材の放射性物質について検査を行うこと。
- 4、水道水の汚染に備えて、ペットボトルを大量に確保し、防災井戸が使えるようにすることなどを徹底すること。
- 5、放射能汚染の状況に即した農畜産物検査と結果公表、食の安全の確保をはかる。生産者へ風評被害を含む補償に、万全を期すこと。
- 6、学校施設の耐震化を早急に図るとともに、公的施設についても耐震診断を早め、年次計画を立て耐震化をすすめること。
- 7、太陽光発電の補助件数を大幅に拡大し、今年度申し込みの設置者についておおよその補助の対象とする。

## 長期支援の必要性痛感した被災地支援ボランティア



宮城野支援センターにて

## 無料生活法律相談会

毎月第4月曜午後6時～  
弁護士と市議会議員が親身に相談に応じます。要予約。左記議員または地区党事務所(25-4854)までお問い合わせください。



暑い日が続いています。熱中症に充分気をつけて下さい。  
暑さに負けず頑張ります！

日本共産党市議団